

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設のため、医療面で本人、ご家族とも安心できる施設となっている。年に3回は合同行事としてお花見会、納涼祭、クリスマス会など開催し、地域のボランティアの協力も得てご家族の参加も募り、本人ご家族一緒人楽しんでいただいている。その他、地区の幼稚園や小学校との交流会も定期的に行い、認知症の方への理解を深めてもらうよう努めている。また、季節を感じていただけるようドライブや外食などの外出の機会を持ち日々の暮らしの中に少しでも楽しみが持てるよう支援し、利用者個々の思いを職員が察知しその思いに添った支援ができるように、個々の能力に応じて力が発揮できるよう役割作りも工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体である診療所に小規模多機能型居宅介護とともに併設されて13年目を迎えた。国道沿いの愛媛大学附属病院に近く、緑豊かな環境の中にも利便性の高い商業施設が整う地域にあり、日常生活に不便は少ない。緊急時には避難経路が多数確保しやすい平屋造りで、それぞれのユニットから景色の良い中庭を眺めることができる。隣接する診療所とは24時間体制で医療連携が図れることが大変心強く、日常の健康管理とともに安心した生活へとつながっている。男性職員と女性職員の配置のバランスがよく、互いに協力し合いながらケアに努めている。今後もチームの支援力を高め、地域と利用者をつなぎ、地域との連携を高める活動を特に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)

氏名 松本 和子

評価完了日

平成28年6月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者、職員が運営理念を共有し日々実践できるよう、常に目の届くところに掲示している。</p> <p>(外部評価) 優しい介護を温かく家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立って提供すること目指し、わかりやすい言葉を用いて作成されている。入職時に管理者から説明し、事業所内に掲示して共有している。また、定期的に発行されるお便りにも記載し、利用者やその家族等と共有することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方には日常的に挨拶するようにし、地区の幼稚園児や小学校児童の訪問を受け入れや運動会への参加などを通じて交流するようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域の幼稚園との交流は開設後早くから始まり、13年を迎える現在も継続できている。近年では、小学校の福祉体験学習や高校の福祉課程の実習受け入れが定期的に行われるようになり、認知症の理解や支援の方法を発信している。地域の子供と交流できることは何より利用者の楽しみとなっている。散歩などの日常生活で地域住民と気軽に挨拶が交わされている。</p>	地域の子供達や学生との交流は認知症の理解や支援の方法の発信となり、利用者の楽しみであるため、今後も継続させて欲しい。地域住民とは挨拶が交わされる関係ではあるが、運営推進会議や行事などを活用し、地域と事業所をつなぐ協力者を獲得することが望まれる。地域住民と密接な相互協力関係を構築することで、日々の生活をより豊かにすると共に緊急時の安心感を高めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所内での認知症への理解も不十分なところがあり、外部や内部研修を通じて、職員の知識の習得と支援の方法を学んでいるところです。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回定期的に運営推進会議を開催し、地区の方の参加をお願いし、サービス内容の報告や利用者及びご家族の参加もお願いし、率直な感想や意見を伺うようにし、改善点や実践できるところは取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、地域住民の代表者、地域包括支援センター職員等に参加協力を得て、併設される小規模多機能型居宅介護と合同で開催している。事業所からの現況報告のほか、地域の情報交換や事業所内外で受けた研修や勉強会の学びを情報発信する取組みがある。参加者からは専門的なアドバイスを受けたり、気軽な意見交換ができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所や包括支援センターの方にも運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みも報告し、管理者ケアマネはいろんな連絡会にも参加し信頼関係を築けるよう努めている。	
			(外部評価) 市町村担当者、地域包括支援センター職員とは運営推進会議を通じ、定期的に顔を合わせることができている。直接運営に関する実情に触れ理解してもらうことで、具体的なアドバイスがもらえている。地域密着型連絡会に参加し、近隣の地域密着型サービス事業者との意見交換や関係づくりの場となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関には施錠しているが外部研修での内容をミーティングなどで具体的な事例を話し合ったり、資料の回覧により全員にフィードバックできるようにし禁止の対象となる行為について職員やご家族の理解を深めながら、身体拘束ゼロを目指して取り組むようにしている。	
			(外部評価) 転倒による骨折リスクが高い利用者等に、切迫性・非代替性・一時性を満たしたうえで医療指示の元、ミトンや車椅子ベルトを使用している現状にある。職員は事業所内外で勉強会や研修の機会を活用して正しく理解することに努め、拘束時間や軽減など身体拘束をしないケアへ取り組んでいる。事業所付近は交通量の多い国道や水路があるので、安全面を考慮して、家族に説明し門扉に施錠活用をしている。	生命や身体保護のためのやむを得ない具体的な行為について、軽減やしないケアについて気付きを発言したり、ミーティングで話合っている。今後は身体拘束に関する経過観察記録や、ミーティングでの話し合いで必要性や方法などの再検討内容の記録を確実に実施して欲しい。今後も身体拘束をしないケアに向けての取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 関連する研修にはできるだけ参加し職員全員にフィードバックできるようにし、具体的にどんなことが虐待になるのかユニットでの実際のケースについても評価を行いながら、見過ごすことのないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、ケアマネが関連する研修に参加し職員にフィードバックできるようにしているが、活用するようなケースは今のところない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約はケアマネが担当し、制度改正や料金改正時などは文章でお知らせしたり、不明な点は管理者かケアマネまでお知らせいただき個別に説明し、十分理解してもらえような体勢で取り組んでいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に投書箱を設置しているが、できるだけご家族に働きかけ日々の会話や面会時のお話、また管理者やケアマネに上がる苦情や希望も常に話し合い、その都度対応し、また運営推進会議においても率直に意見を伺いながら、具体的に日々の業務に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 入居時には重要事項説明書で事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。家族等には意見箱や面会時、電話連絡の機会を活用して意見を伺うほか、事業所便りや担当職員から手紙を送付するなど良好な関係づくりに努めている。家族等から具体的に声かけの方法について意見をいただくこともあり、気になる職員には直接管理者が話をしたり職員間で話し合うことで改善へのチャンスと捉え、早期に運営に反映するように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月1回は全体ミーティングやユニットミーティングを行い、 個々の職員の意見を聞くようにし、行事や日々の支援に活 かせるよう努めている。	
			(外部評価) 職員割合が男女半々と配置バランスがとれており、双方の 得意分野を活かしたケアへつなげている。職員同士が助け 合いや励まし合い、それぞれの立場を理解した関係が構築 されている。経歴の長い管理者が交代し、新しくスタート をきったが、管理者も夜勤を含めたシフトを共にし、職員 の動向を把握している。	管理者の交代によりチームとしての基盤づくりができ ることに期待する。職員個々のケアの方法と力量、今 後の目標や課題などを把握したり、思いを理解するこ とで関係性を深めることに取り組んで欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 管理者は常に職員の状況を把握できるよう努め、必要に応 じて個別の面談や話し合いの場を設けながら、モチベー ションアップにつながるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は管理者を通じて、個人のレベルアップのための研 修や施設全体のレベルアップのための研修が受けれるよう 推進し、働きながら研修の機会を持てるよう配慮してい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者やケアマネは地域の事業所同士の勉強会や交流会に 参加し、ネットワーク作りに努めているところ。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時はできるだけ早く環境に慣れ、安心してもらえるよ う職員からの積極的な声掛けや働きかけを行い、利用者 の気持ちをくみ取れるよう努め、不安や困りごとともその都 度対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前や契約時の面談で家族の要望を伺い、また不安に思う事、本人には言いにくい困っていることなど小さなことでも伺うよう努め、安心してもらえるよう対応も相談しながら一つ一つ解決するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 現状を把握し、主治医とも相談し、残存能力も活かしながら必要な支援を検討しご家族の理解も得ながら、柔軟に対応できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者本位を前提にし、出来るだけご本人らしく生活できるよう寄り添いながら、必要な手助けができるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人とご家族の関係性を把握し、個々のケースに合った家族のつながりを継続できるよう、また、ご家族の気持ちにも寄り添いながら、何かあればご家族、ケアマネ含め一緒に考えていけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が今までお世話になったタクシーが使えたり、行きつけの病院にも受診できるよう連絡し、情報共有し今までできていたことが継続できるようできるだけの支援をしている。  (外部評価) 利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所に入居しても変わらず継続できるように努めている。居室で休む時間が増えた利用者の一人は、古くからの友人が度々訪れてくれることに心から感謝していると話し、気軽に立ち寄れる雰囲気があることを感じる。家族協力を得て自宅に立ち寄りたり、外出する利用者もおり、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングで過ごす時はレクを通じて利用者同士が会話したり楽しめるよう支援し、一緒にお手伝いをしてもらったりと少しでも多く関わりが持てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が亡くなりサービスが終了しても地区の代表として運営推進会議に出席してもらっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限り本人の状況や要望に沿った暮らし方ができるよう毎月担当職員がモニタリングを行い、状態変化があれば見直しし、意向をその都度確認しながら、無理な場合は何が必要か、どうすれば安心して生活できるか施設長、ケアマネ、ユニットで話しながら計画を見直しするようにしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討することができている。利用者個々の症状の進行により、思いを伝えることが困難な利用者も多いが、表情などの反応で思いをくみ取ったり、家族協力を得ながら本人本位に検討するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人との普段の会話やご家族との話の中から、以前の生活習慣や好きだったことなど伺い、実践できるよう配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や申し送りを通じて、1月に1回は担当職員によりモニタリングを行い、現状把握と残存能力の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回は担当職員でもモニタリングを行い、ケアマネはご家族や本人の意向を確認し、主治医やリハビリ担当と連携をとり話し合い、課題を見つけながら介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価) 介護支援専門員が中心となり介護計画書の作成、毎月のモニタリングを実施している。生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思い、担当職員のアイデアを取り入れ、状況の変化や半年毎の見直しを実施している。担当職員の意見や記録を元に数値化してモニタリングを実施している。	現在は介護記録の中から必要な箇所を抜粋する状況にあり、介護計画書に基づいた実施記録を明確に記載することが求められる。より根拠あるモニタリングが実施され、利用者個々の生活のやりがいにつながることに期待したい。また、職員が介護計画書に基づいたケアを理解し実施していく中で、利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方についての気づきや、スキル向上に役立つ業務改善の取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録により、日々の様子や具体的な支援内容はケアマネとも情報を共有し、疑問点や問題点はその都度話し合い、その都度対応方法を検討しながら介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のケースにより、ご家族を交え必要ならリハビリ職も交えながら納得していただけるよう話し合い、ご家族と一緒にご本人のニーズに対応していけるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) タクシーで併設病院以外の受診される方がおられ、認知が進んでもできる限り自身で受診できるよう、ご家族の了解を得て、地域の家政婦紹介所に依頼し受診の付き添いをお願いしている。その他、銀行や郵便局も必要な時にタクシーの協力を得て自由に外出できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 受診同席希望のご家族には同席できるよう配慮したり、ご 本人の状態に合わせて、主任やケアマネが同席し、ご家族 の希望も含め、納得できる適切な医療が受けられるよう支 援している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として利 用している。協力医療機関は事業所隣にあり、24時間体 制での医療連携が図られることに安心感がある。専門医な どの希望する医療機関の受診は家族協力を得て支援され、 緊急時は管理者や介護支援専門員が同行し適切な医療が受 けられるように努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は、日々の状態や気付いたことを看護師に報告 し相談したり、主治医に申し送りし、必要なら臨時診察も 受けられるよう看護師や主治医と常に連携をとっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 併設の病院、外部の病院含め、早期にまた継続して情報交 換できるように努め、また入院後の情報を収集し状態に応 じて即時対応できるよう、ケアマネが連携室の相談員との 関係づくりを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時には重度化や終末期における対応について書面で説 明を行い、本人ご家族の意向を確認し、状態に応じてご家 族と話し合い、その都度意向を確認でき、また主治医とも 相談しながら必要な支援が提供できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備し、利用者や 家族に説明している。これまでも多数の看取り経験を持 ち、協力医療機関と密接な医療連携を図りながらチームで の支援に努め、状況に応じた話し合いの場を設けている。 職員同士はミーティングや業務の中でその都度話し合いを行 うほか、法人内外の研修や勉強会に参加し不安軽減やスキ ルの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、また内部研修で緊急対応について学び、実践に活かせるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回は避難訓練（うち1回は消防職員立会い）で実施し、避難訓練や消火訓練などを行い、消防職員の助言や指導を受けている。また、出来る限り職員は参加している。地域の方の参加は今のところ無い。 (外部評価) 年2回の消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。非常時の備蓄品として3日目安の食料を備えている。避難場所となる中庭を囲んだ平屋造りで避難経路を多数確保しやすく、避難時の弊害防止として床に不要なものを置かないように注意している。移動時に車椅子使用者や介助が必要な利用者が多いため、職員人数の少ない時間帯の安全確実な避難方法や、地域住民を含めた訓練の実施が必要な状況にある。	移動時に介助が必要な利用者がほとんどであり、確実に利用者や職員が安全に避難できるよう、危機感をもった取組みの必要性がある。法定訓練だけでなく自主訓練も視野に入れながら、ユニット間と法人内事業所間、地域住民との協力体制の構築は必須であり、実際に訓練をしながら不安軽減に努めて欲しい。地域住民を含めた訓練の実施や、協力体制を築くために具体的な方法を、職員間や運営推進会議の機会を活用し共に検討することで前進できることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格を尊重し態度や言葉遣いを注意し、利用者を否定することなく安心して生活でき、また自尊心を傷つけないような対応に努めている。 (外部評価) 個人情報取り扱いについて書面をもって説明し、同意を得ている。排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面をはじめ、日頃から声かけに注意をはらっている。利用者の誇りやプライバシーを意識した対応が心がけられている様子は、職員の優しい声かけに現れている。口調が強く感じるなど配慮に欠けていると感じれば、その都度職員同士注意し合い改善へと取り組むことができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定のできない利用者に対しては、見守りと観察また、時間をかけてコミュニケーションの場を多く持つことで思いや希望を言い表せるよう働きかける対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が孤独を感じないよう声掛けを行い、その人らしく生活できるよう日常の会話の中で趣味を見つけ、実践できるよう努めている。俳句を作り、字の練習をかねて自分で書かれている方もおられる。その他は歌を唄ったり簡単なリハビリ体操など実施している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1日の生活の中でできるだけメリハリがつくように着替えの声掛けを行っている。定期的に施設職員が散髪も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員は別々に食事しており、現在お手伝いのできる方もいない。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、食材等は一括購入しているが、ユニット毎に調理し温かな香りが食欲を誘っている。準備や下ごしらえなど可能な利用者は職員と共に手伝っている。生活の中で食事に関する希望や好みを把握し、外出時に寿司店や喫茶店を活用したり、主食や飲料の希望に対応することができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士のメニューに沿って調理しているためバランスは取れている。また、個人に合わせキザミにしたり、水分にとりみをつけたりできる限り一人一人の状態に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし入れ歯の方は入れ歯清掃、入れ歯がない方もうがいや水分をとってもらい、清潔保持に努めている。夜間は入れ歯を外し洗浄剤につけてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、また、排便チェック表を観察しながら排泄の状態を把握し、可能な人はできる限り1日1回でもトイレに座ってもらっている。	
			(外部評価) 協力医療機関のリハビリテーション担当者とは相談しながら、利用者の残存能力や機能回復に考慮した取組みをしている。排便チェック表にてパターンを把握し、個別に誘導や介助を行っている。トイレでの自然排泄を大切にしているが、無理なく排泄支援が実施できるよう習慣や用品の選定を工夫し、自立に向けた支援に取り組むことに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態に応じた服薬で排便コントロールを行っている。また、水分補給は十分できるよう個別に対応している。食事の工夫や運動は特に取り組んでいない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2～3回のペースで担当職員がその日の13時以降に3人までと決めて実施している。利用者の状態に合わせ必要な支援を行える事は自分でしてもらっている。	
			(外部評価) 週2回午後からの入浴支援を基本にしている。各ユニットには個別浴槽がある。医療面で入浴ができない利用者には清拭対応で清潔を保持している。入浴が苦手な利用者にも、誘い方や2人介助など柔軟な対応に工夫することで、無理強いすることなく入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の利用者で1日のペースはほとんど決まっており、体調不良以外はその方のペースや気分に合わせて、様子観察しながらご本人の意思も確認し、穏やかに過ごせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員がすべての方に関して理解はしていないが、主任はほぼ理解し誤薬のないよう管理しており、薬状はすぐに職員が見れるようにしており、変化があればすぐに看護師や主治医に報告し指示を仰ぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 現状に合わせてユニットの中で洗濯物たたみなどの役割を支援、また、その方のお好きな物をご家族に預り個別に対応、気分転換に関しては歌やボール遊びなど週1回程度実施している。小学生や幼稚園児との交流会は定期的に来てもらっている。今後は地域のボランティアも利用していく予定になっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 重度の方が多いので日常的には難しいが、ドライブや外食など年に何回かは外出支援を行っている行きたい場所などは利用者の希望を聞くようにしている。家族や地域の方の協力での外出支援はできていない。天気の良い日は中庭に出て日光浴などしている。	
			(外部評価) 景色の良い事業所周辺地域での散歩や眺めの良い中庭での日光浴で、日頃から気分転換を図ることができている。身体状況により外出が困難な利用者もおり、繰り返しの訪室や声かけで気持ちを和らげるよう工夫している。金銭管理の利用者も安心して外出できるよう、お金を使った場合の用途については、随時わかりやすく報告している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持している方は1名のみでほぼ自己管理できている。他の方は預り金にて職員が買い物に行く程度。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話の所持は2名おられ、家族に自由に連絡されている。その他の方は家族に連絡されることはない。手紙のやり取りはできていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 機構のよい時は中庭で日光浴などしている。普段はホールで過ごしてもらうことが多く、照明や温度は適度に保っている。BGMなどはなく、ほぼ1日中テレビをつけている。月によって壁飾りは変えている。	
			(外部評価) 緑の芝生が和む中庭をユニットそれぞれから眺めることができ、和調の建物やウッドデッキ、畳のコーナーなど各所に気持ちを休める場所がある。天井が高く開放感と明るさがある。日中利用者はリビングに集い、ゆったりとした時間を過ごしている。季節の花が飾られ、室温や湿度に配慮しながら居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでは仲良しの方は話をされたり、一緒に歌を唄われたりして過ごされている。利用者の相性を考慮し、席も決まっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはご家族の写真やお花などご家族の協力で、利用者の好みや馴染みのあるものを入居時に持ってきてもらい、入居後もいろいろな写真や手芸の物を自由に飾ってもらっている。家族が持ってこられていない方には施設で撮った写真など飾っている。	
			(外部評価) エアコン、整理ダンス、洗面台、ベッドなどが整備された居室であり、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声かけもしている。利用者の思いや習慣に合わせて、家族の写真や掲示物がきちんと飾られ、また、身の回りもきれいに整えられており清潔感が感じられる。利用者が大切にしている物や、家族や、友人からの土産物などを配置するなど工夫し、居心地よく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口にやトイレ、浴室にはプレートを付けわかりやすいようにしている。洗剤など危険な物は目のつくところには置かないようにしている。車椅子を自走する利用者のためには通行の妨げにならないよう余計な物は置かないようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設のため、医療面で本人、ご家族とも安心できる施設となっている。年に3回は合同行事としてお花見会、納涼祭、クリスマス会など開催し、地域のボランティアの協力も得てご家族の参加も募り、本人ご家族一緒人楽しんでいただいている。その他、地区の幼稚園や小学校との交流会も定期的に行い、認知症の方への理解を深めてもらうよう努めている。また、季節を感じていただけるようドライブや外食などの外出の機会を持ち日々の暮らしの中に少しでも楽しみが持てるよう支援し、利用者個々の思いを職員が察知しその思いに添った支援ができるように、個々の能力に応じて力が発揮できるよう役割作りも工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体である診療所に小規模多機能型居宅介護とともに併設されて13年目を迎えた。国道沿いの愛媛大学附属病院に近く、緑豊かな環境の中にも利便性の高い商業施設が整う地域にあり、日常生活に不便は少ない。緊急時には避難経路が多数確保しやすい平屋造りで、それぞれのユニットから景色の良い中庭を眺めることができる。隣接する診療所とは24時間体制で医療連携が図れることが大変心強く、日常の健康管理とともに安心した生活へとつながっている。男性職員と女性職員の配置のバランスがよく、互いに協力し合いながらケアに努めている。今後もチームの支援力を高め、地域と利用者をつなぎ、地域との連携を高める活動を特に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)  
氏名 古川真奈美

評価完了日 平成28年6月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念「優しい介護・温かい家庭的な・ご利用者の立場」のもと安心して頂けるよう職員一丸となって実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 優しい介護を温かく家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立って提供すること目指し、わかりやすい言葉を用いて作成されている。入職時に管理者から説明し、事業所内に掲示して共有している。また、定期的に発行されるお便りにも記載し、利用者やその家族等と共有することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 2～3ヶ月に1度地域の幼稚園や小学校と交流したり、お花見会・夏祭り・クリスマス会の行事には地域の方のボランティアに参加していただいている。また運動会にも参加させていただいている。</p> <p>(外部評価) 地域の幼稚園との交流は開設後早くから始まり、13年を迎える現在も継続できている。近年では、小学校の福祉体験学習や高校の福祉課程の実習受け入れが定期的に行われるようになり、認知症の理解や支援の方法を発信している。地域の子供と交流できることは何より利用者の楽しみとなっている。散歩などの日常生活で地域住民と気軽に挨拶が交わされている。</p>	地域の子供達や学生との交流は認知症の理解や支援の方法の発信となり、利用者の楽しみであるため、今後も継続させて欲しい。地域住民とは挨拶が交わされる関係ではあるが、運営推進会議や行事などを活用し、地域と事業所をつなぐ協力を獲得することが望まれる。地域住民と密接な相互協力関係を構築することで、日々の生活をより豊かにすると共に緊急時の安心感を高めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 幼稚園や小学校との交流で認知症の方への理解に向けて努力している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議で利用者様の現況報告や行事・研修報告をさせてい ただき、「待っているのではなくこちらから、どんどん声 を掛けてみては？」などの意見を参考にサービス向上に努 めている</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等、地域住民の代表者、地域包括支援セン ター職員等に参加協力を得て、併設される小規模多機能型 居宅介護と合同で開催している。事業所からの現況報告の ほか、地域の情報交換や事業所内外で受けた研修や勉強 会の学びを情報発信する取組みがある。参加者からは専門 的なアドバイスを受けたり、気軽な意見交換ができてい る。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席して頂いた際にケアサービスの取り 組みを伝えたり相談し、関係性を築けるようにしている。</p> <p>(外部評価) 市町村担当者、地域包括支援センター職員とは運営推進 会議を通じ、定期的に顔を合わせることができている。直接 運営に関する実情に触れ理解してもらうことで、具体的な アドバイスがもらえている。地域密着型連絡会に参加し、 近隣の地域密着型サービス事業者との意見交換や関係づく りの場となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修に参加し、ミーティング内でフィードバックし、理解 し身体拘束しないケアに努めているが、IVH対応の方がルー ト抜去の可能性があるためミトン着用。食事中のみ見守りにて 外す時間をとるよう取り組んでいる。また、玄関の施錠に 関しては道路や水路が前にあり、安全面を踏まえて説明し 施錠させてもらっている</p> <p>(外部評価) 転倒による骨折リスクが高い利用者等に、切迫性・非代替 性・一時性を満たしたうえで医療指示の元、ミトンや車椅子 ベルトを使用している現状にある。職員は事業所内外で 勉強会や研修の機会を活用して正しく理解することに努 め、拘束時間や軽減など身体拘束をしないケアへ取り組ん でいる。事業所付近は交通量の多い国道や水路があるので、安全面を考慮して、家族に説明し門扉に施錠活用をして いる。</p>	<p>生命や身体保護のためのやむを得ない具体的な行為に ついて、軽減やしないケアについて気付きを発言した り、ミーティングで話合っている。今後は身体拘束に 関する経過観察記録や、ミーティングでの話合いで必 要性や方法などの再検討内容の記録を確実に実施して 欲しい。今後も身体拘束をしないケアに向けての取組 みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、ミーティング内でフィードバックし、話し合いを行い日常でも職員同士が注意し合える環境づくりに努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度のマニュアルはあるが、活用できていないため学ぶ機会を増やして支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネや管理者が同席し、分かりやすく説明を行い質問や不安をお聞きし理解・納得を得ている。また利用者様の状況に応じて話し合いし説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に家族様や地域の方に参加していただき、意見や要望をお聞きし、活かせるように努めている。参加できない家族様に関しては面会時などに意見等をお聞きしている。	
			(外部評価) 入居時には重要事項説明書で事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。家族等には意見箱や面会時、電話連絡の機会を活用して意見を伺うほか、事業所便りや担当職員から手紙を送付するなど良好な関係づくりに努めている。家族等から具体的に声かけの方法について意見をいただくこともあり、気になる職員には直接管理者が話をしたり職員間で話し合うことで改善へのチャンスと捉え、早期に運営に反映するように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度のミーティングで職員からの意見を聞いてはいるが反映できていないところもあり、活かせるように努めていきたい。  (外部評価) 職員割合が男女半々と配置バランスがとれており、双方の得意分野を活かしたケアへつなげている。職員同士が助け合いや励まし合い、それぞれの立場を理解した関係が構築されている。経歴の長い管理者が交代し、新しくスタートをきったが、管理者も夜勤を含めたシフトを共にし、職員の動向を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が良い雰囲気の中で働けるように話し合い、協力できる環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に必要な研修を等すすめるなどし、積極的に参加できるように努めている。その後フィードバックすることにより、再度確認できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修の参加時、他の事業所の方に意見をお聞きしたりしてサービス向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の不安なことなどをお聞きし本人の状況を踏まえて安心して過ごせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様の要望等小さい事でも話し合いを重ね関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様と本人の状況把握に努め必要とする支援をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれの価値観や状況を踏まえて個々の力量を発揮できる事食器洗いや洗濯たたみなどを一緒に行い、関係性を深めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や必要時は電話で家族様に状況をお伝えし、相談しながら職員と一緒に本人を支援できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族様にお聞きし馴染みのある人には面会して頂いたり関係が途切れないように努めている。しかし馴染みの場所は把握しているが行けていないこともあるので今後支援できるようにしていきたい。  (外部評価) 利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所に入居しても変わらず継続できるように努めている。居室で休む時間が増えた利用者の一人は、古くからの友人が度々訪れてくれることに心から感謝していると話し、気軽に立ち寄れる雰囲気があることを感じる。家族協力を得て自宅に立ち寄りたり、外出する利用者もおり、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1人1人の状況を把握し、利用者同士が仲良くおしゃべりしたり協力できるように、職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても家族様からの相談に乗れるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できるだけ一人一人の希望をなどをお聞きしている。また家族様からもお話を聞くことで情報を補うように努めている。  (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討することができている。利用者個々の症状の進行により、思いを伝えることが困難な利用者も多いが、表情などの反応で思いをくみ取ったり、家族協力を得ながら本人本位に検討するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでいた施設の方や本人また家族様に聞いて情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムや思いを把握するように話を聞いたり、様子観察するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のミーティングや日常業務の中で本人との会話や家族様の面会時や他職種と意見交換を行い、状況に応じた介護計画を作るようにしている。  (外部評価) 介護支援専門員が中心となり介護計画書の作成、毎月のモニタリングを実施している。生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思い、担当職員のアイデアを取り入れ、状況の変化や半年毎の見直しを実施している。担当職員の意見や記録を元に数値化してモニタリングを実施している。	現在は介護記録の中から必要な箇所を抜粋する状況にあり、介護計画書に基づいた実施記録を明確に記載することが求められる。より根拠あるモニタリングが実施され、利用者個々の生活のやりがいにつながることに期待したい。また、職員が介護計画書に基づいたケアを理解し実施していく中で、利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方についての気づきや、スキル向上に役立つ業務改善の取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 普段の様子などを記入しているが、詳細に書けていないこともあるが、常に職員同士で気づきや変化にを話し合い情報共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の希望など必要に応じて支援できるように対応しているが、今のところそのような相談はない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の園児や児童の訪問を受け、一人ひとり暮らしの中で楽しみを持てるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 隣接する病院があり、適切な医療を受けられるように支援 している。その事で家族様も安心して納得されている。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として利 用している。協力医療機関は事業所隣にあり、24時間体 制での医療連携が図られることに安心感がある。専門医な どの希望する医療機関の受診は家族協力を得て支援され、 緊急時は管理者や介護支援専門員が同行し適切な医療が受 けられるように努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 隣接する病院があり、看護職と情報交換できる環境があ り、気になる事や変化も相談し、必要時には受診できるよ うにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者と情報交換し早期に退院できるように努めてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約の際にも話し合い、状況に応じて再度話し合いを行 い、職員全員で支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備し、利用者や 家族に説明している。これまでにも多数の看取り経験を持 ち、協力医療機関と密接な医療連携を図りながらチームで の支援に努め、状況に応じた話し合いの場を設けている。 職員同士はミーティングや業務の中でその都度話し合いを行 うほか、法人内外の研修や勉強会に参加し不安軽減やスキ ルの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 院内勉強会や看護師に急変時・事故発生時の対応について聞いて教えていただいております、職員全員が初期対応できるように努めている。マニュアルも目のつくところに置いてある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を行い、日中や夜間時の誘導がスムーズに行えるようにしている。  (外部評価) 年2回の消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。非常時の備蓄品として3日目安の食料を備えている。避難場所となる中庭を囲んだ平屋造りで避難経路を多数確保しやすく、避難時の弊害防止として床に不要なものを置かないように注意している。移動時に車椅子使用者や介助が必要な利用者が多いため、職員人数の少ない時間帯の安全確実な避難方法や、地域住民を含めた訓練の実施が必要な状況にある。	移動時に介助が必要な利用者がほとんどであり、確実に利用者や職員が安全に避難できるよう、危機感をもった取組みの必要性がある。法定訓練だけでなく自主訓練も視野に入れながら、ユニット間と法人内事業所間、地域住民との協力体制の構築は必須であり、実際に訓練をしながら不安軽減に努めて欲しい。地域住民を含めた訓練の実施や、協力体制を築くために具体的な方法を、職員間や運営推進会議の機会を活用し共に検討することで前進できることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の気持ちを尊重しプライバシーを守って対応するように心がけている。  (外部評価) 個人情報の取り扱いについて書面をもって説明し、同意を得ている。排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面をはじめ、日頃から声かけに注意をはらっている。利用者の誇りやプライバシーを意識した対応が心がけられている様子は、職員の優しい声かけに現れている。口調が強くなるなど配慮に欠けていると感じれば、その都度職員同士注意し合い改善へと取り組むことができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) なるべく自分で決めていただけるように選択できるように声掛けなど行っている。自己決定できない方でも声掛けするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、なるべく本人の希望に添えるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人に合ったおしゃれができるようにして楽しみが持てるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 温かいものは温かいまま出すように努めたり盛り付けなども気をつけている。 片付けについてはコップを洗って頂いたりお盆を拭いて頂くなど一緒にして頂いている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、食材等は一括購入しているが、ユニット毎に調理し温かな香りが食欲を誘っている。準備や下ごしらえなど可能な利用者は職員と共に手伝っている。生活の中で食事に関する希望や好みを把握し、外出時に寿司店や喫茶店を活用したり、主食や飲料の希望に対応することができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がバランスを考えてメニューを作成してくれている。また朝食でパンを希望している方はパンに変更している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに合った介助や見守りで実施している。また拒否の多い方にはお茶を最後に飲んでいただくなど様子を見て支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し、尿意・便意がある方はトイレ誘導を行うよう支援している。また少しずつではあるが布パンツ使用者も増えてきている。	
			(外部評価) 協力医療機関のリハビリテーション担当者とは相談しながら、利用者の残存能力や機能回復に考慮した取組みをしている。排泄チェック表にてパターンを把握し、個別に誘導や介助を行っている。トイレでの自然排泄を大切にしているが、無理なく排泄支援が実施できるよう習慣や用品の選定を工夫し、自立に向けた支援に取り組むことに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 普段から野菜を多く取り入れたメニューになっている。昼間体操を行ったり牛乳を提供したり、便秘によさそうな事は随時取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に入浴日は決めているがその日の本人の希望も取り入れている。また介助が必要でも湯船に入りたいと希望があれば2名介助で入っていただいている。	
			(外部評価) 週2回午後からの入浴支援を基本にしている。各ユニットには個別浴槽がある。医療面で入浴ができない利用者には清拭対応で清潔を保持している。入浴が苦手な利用者にも、誘い方や2人介助など柔軟な対応に工夫することで、無理強ひすることなく入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各利用者の体調の変化や気分に合わせて休息や臥床の時間をとり、気持ちよく眠れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬内容が変わればその都度薬情を提供していただき職員間で確認に努めている。個々のファイルに閉じわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や性格に合わせて役割を作り行って頂いている。また職員と一対一で談話したり、趣味のハーモニカ演奏をして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常の会話の中で行きたい所をお聞きしていただけるように努めている。また外出が難しい人は中庭に出てください日光浴の支援に努めている。  (外部評価) 景色の良い事業所周辺地域での散歩や眺めの良い中庭での日光浴で、日頃から気分転換を図ることができている。身体状況により外出が困難な利用者もおり、繰り返しの訪室や声かけで気持ちを和らげるよう工夫している。金銭管理の利用者も安心して外出できるよう、お金を使った場合の用途については、随時わかりやすく報告している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出支援の際に3分の1くらいの方はお金を渡し、職員見守りのもと支払していただくよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば実現できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節を感じていただけるように飾りつけやお花を飾っている。	
			(外部評価) 緑の芝生が和む中庭をユニットそれぞれから眺めることができ、和調の建物やウッドデッキ、畳のコーナーなど各所に気持ちを休める場所がある。天井が高く開放感と明るさがある。日中利用者はリビングに集い、ゆったりとした時間を過ごしている。季節の花が飾られ、室温や湿度に配慮しながら居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファなどの配置を考え中庭を見たりひとりゆっくり寛げられるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様に親しんだ品物を居室に持ち込んでもらえるように働きかけている。	
			(外部評価) エアコン、整理ダンス、洗面台、ベッドなどが整備された居室であり、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声かけもしている。利用者の思いや習慣に合わせて、家族の写真や掲示物がきちんと飾られ、また、身の回りもきれいに整えられており清潔感が感じられる。利用者が大切にしている物や、家族や、友人からの土産物などを配置するなど工夫し、居心地よく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室に手すりを配置し安全に生活できるようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設のため、医療面で本人、ご家族とも安心できる施設となっている。年に3回は合同行事としてお花見会、納涼祭、クリスマス会など開催し、地域のボランティアの協力も得てご家族の参加も募り、本人ご家族一緒人楽しんでいただいている。その他、地区の幼稚園や小学校との交流会も定期的に行い、認知症の方への理解を深めてもらうよう努めている。また、季節を感じていただけるようドライブや外食などの外出の機会を持ち日々の暮らしの中に少しでも楽しみが持てるよう支援し、利用者個々の思いを職員が察知しその思いに添った支援ができるように、個々の能力に応じて力が発揮できるよう役割作りも工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体である診療所に小規模多機能型居宅介護とともに併設されて13年目を迎えた。国道沿いの愛媛大学附属病院に近く、緑豊かな環境の中にも利便性の高い商業施設が整う地域にあり、日常生活に不便は少ない。緊急時には避難経路が多数確保しやすい平屋造りで、それぞれのユニットから景色の良い中庭を眺めることができる。隣接する診療所とは24時間体制で医療連携が図れることが大変心強く、日常の健康管理とともに安心した生活へとつながっている。男性職員と女性職員の配置のバランスがよく、互いに協力し合いながらケアに努めている。今後もチームの支援力を高め、地域と利用者をつなぎ、地域との連携を高める活動を特に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 野間 博

評価完了日

平成28年 6 月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念をリビングに掲示し、職員全員が意識付けできるようにしている。	
			(外部評価) 優しい介護を温かく家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立って提供すること目指し、わかりやすい言葉を用いて作成されている。入職時に管理者から説明し、事業所内に掲示して共有している。また、定期的に発行されるお便りにも記載し、利用者やその家族等と共有することができている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の幼稚園や小学校の運動会に参加したり、定期的に訪問してもらい交流の機会を持ち、また地域の方のボランティアの受け入れも行っているが、日常的には交流できていない。	
			(外部評価) 地域の幼稚園との交流は開設後早くから始まり、13年を迎える現在も継続できている。近年では、小学校の福祉体験学習や高校の福祉課程の実習受け入れが定期的に行われるようになり、認知症の理解や支援の方法を発信している。地域の子供と交流できることは何より利用者の楽しみとなっている。散歩などの日常生活で地域住民と気軽に挨拶が交わされている。	地域の子供達や学生との交流は認知症の理解や支援の方法の発信となり、利用者の楽しみであるため、今後も継続させて欲しい。地域住民とは挨拶が交わされる関係ではあるが、運営推進会議や行事などを活用し、地域と事業所をつなぐ協力者を獲得することが望まれる。地域住民と密接な相互協力関係を構築することで、日々の生活をより豊かにすると共に緊急時の安心感を高めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 月1回近況報告を送付したり、行事の報告として菜の花便りをご家族や幼稚園や小学校に送付し、行事の内容などを報告するなどして施設を知ってもらうようにしているが、地域の方に向けて活かしてはいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて日常生活の様子や事業所での取り組みな いようなどを報告し、いろいろ意見や感想を伺っている。 サービス内容についての意見も参考にし利用者様が楽しく 生活できるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、地域住民の代表者、地域包括支援セン ター職員等に参加協力を得て、併設される小規模多機能型 居宅介護と合同で開催している。事業所からの現況報告の ほか、地域の情報交換や事業所内外で受けた研修や勉強 会の学びを情報発信する取組みがある。参加者からは専門 的なアドバイスを受けたり、気軽な意見交換ができてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて出席してもらい、またケアマネを通じて 取り組み内容を伝え、また、勉強会などにも参加し信頼関 係を築けるよう努めている。	
			(外部評価) 市町村担当者、地域包括支援センター職員とは運営推進会 議を通じ、定期的に顔を合わせることができている。直接 運営に関する実情に触れ理解してもらうことで、具体的 なアドバイスがもらえている。地域密着型連絡会に参加し、 近隣の地域密着型サービス事業者との意見交換や関係づく りの場となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会に参加するよう推進し、職員全員が理解できるよう 努め、身体拘束をしないケアを目指し職員で話し合いを 行っている。ユニットの構造上、玄関からすぐに外に出れ るため、安全面に配慮し玄関にのみ施錠している。利用者 やご家族には理解してもらっている。	
			(外部評価) 転倒による骨折リスクが高い利用者等に、切迫性・非代替 性・一時性を満たしたうえで医療指示の元、ミトンや車椅 子ベルトを使用している現状にある。職員は事業所内外で 勉強会や研修の機会を活用して正しく理解することに努 め、拘束時間や軽減など身体拘束をしないケアへ取り組ん でいる。事業所付近は交通量の多い国道や水路があるの で、安全面を考慮して、家族に説明し門扉に施錠活用をし ている。	生命や身体保護のためのやむを得ない具体的な行為に ついて、軽減やしないケアについて気付きを発言したり、 ミーティングで話合っている。今後は身体拘束に関 する経過観察記録や、ミーティングでの話合いで必 要性や方法などの再検討内容の記録を確実に実施して 欲しい。今後も身体拘束をしないケアに向けての取組 みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 関連する研修には参加するようにし、研修内容はミーティング等でフィードバックし、資料も全職員に回覧するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者やケアマネにより研修参加し、研修内容をミーティング等でフィードバックしているが、今のところ活用にはつながっていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約はケアマネが行い、その都度対応している。また、制度改正や料金改正時などは文書でお知らせし、質問があればすぐに対応できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しているがなかなか投書はない。日々の面会などでご家族に意見や希望を伺い、利用者に対してはその都度対応するようにしている。	
			(外部評価) 入居時には重要事項説明書で事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。家族等には意見箱や面会時、電話連絡の機会を活用して意見を伺うほか、事業所便りや担当職員から手紙を送付するなど良好な関係づくりに努めている。家族等から具体的に声かけの方法について意見をいただくこともあり、気になる職員には直接管理者が話をしたり職員間で話し合うことで改善へのチャンスと捉え、早期に運営に反映するように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の全体ミーティングとユニット会議で職員で話し合う機会を設け、意見交換や提案ができるような体制をとっている。	
			(外部評価) 職員割合が男女半々と配置バランスがとれており、双方の得意分野を活かしたケアへつなげている。職員同士が助け合いや励まし合い、それぞれの立場を理解した関係が構築されている。経歴の長い管理者が交代し、新しくスタートをきったが、管理者も夜勤を含めたシフトを共にし、職員の動向を把握している。	管理者の交代によりチームとしての基盤づくりができることに期待する。職員個々のケアの方法と力量、今後の目標や課題などを把握したり、思いを理解することで関係性を深めることに取り組んで欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者や主任により職員個々の悩みや意見を聞く機会を持ち、必要な場合は個人面談の機会を設け、職場環境の整え、やりがいにつながるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) できる限り必要な研修に行けるような体制をとっている。また、個々のモチベーションアップとレベルアップのため介護福祉士の資格取得もすすめている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着の連絡会や地区の勉強会には積極的に参加するようにし、交流の機会を持つようにしているが相互訪問等の活動はできていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始段階ではケアマネからの情報や、直接ご家族や本人の希望を聞き取るようにし、できる限り対応することで安心して生活できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の立場に立ち、時間をかけて話を聞くことで信頼関係を築けるよう心掛けている。家族の思いや体験など多様な価値観を受け入れるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、介護職員、ケアマネ、リハビリ等の他職種間で話し合い、対応を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に過ごしていく中で、それぞれの能力や意欲に応じて洗濯干しや洗濯たたみ、裁縫などの作業やお手伝いをお願いすることで生活を共にする関係を作り信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様に面会時には利用者の近況をお知らせするようにし、何かあればご家族やケアマネ含め一緒に考えるよう努め、また、定期的に菜の花便りを郵送し現状を報告し、合わせてイベントの開催案内なども送り、ご家族の参加も促し関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係については本人との会話やご家族の面会時のお話以外には特に取り組みはしていない。  (外部評価) 利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所に入居しても変わらず継続できるように努めている。居室で休む時間が増えた利用者の一人は、古くからの友人が度々訪れてくれることに心から感謝していると話し、気軽に立ち寄れる雰囲気があることを感じる。家族協力を得て自宅に立ち寄りたり、外出する利用者もおり、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者のそれぞれの気持ちや、価値観を尊重し相性を考慮した関わりが持てるよう支援し、共同生活ができるだけ楽しく送れるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 実際に終了後に相談支援したケースはない。今後必要があれば相談支援をしていきたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員全員で話し合い、利用者、ご家族の考え方や価値観を把握し、情報共有できるよう努め、ケアマネとも連携してできる限り希望に添えるよう努めている。  (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討することができている。利用者個々の症状の進行により、思いを伝えることが困難な利用者も多いが、表情などの反応で思いをくみ取ったり、家族協力を得ながら本人本位に検討するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活等については本人やご家族からの聞き取りや医療機関やケアマネからの情報により把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の観察記録や日誌、毎朝の申し送り等で、職員同士が情報共有し一人一人の状態を把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者による毎月のモニタリングやアセスメントを通じ、利用者の現状を把握したうえで、本人、家族の意向を確認し施設長、ケアマネ、介護職員が話し合いながら協同して作成するようにしている。  (外部評価) 介護支援専門員が中心となり介護計画書の作成、毎月のモニタリングを実施している。生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思い、担当職員のアイデアを取り入れ、状況の変化や半年毎の見直しを実施している。担当職員の意見や記録を元に数値化してモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 観察記録やバイタルチェック表などで日々の状態を把握し、職員が情報を共有できるように努め、変化があれば必要に応じその都度、話し合い見直しするようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズに対してはその都度、施設長、ケアマネと話し合いできる限り対応できるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の幼稚園児や小学生の訪問を定期的に行い、日常的でない行事を楽しんでもらっている。また、運動会にも毎年参加し地域の行事に参加できるよう努めている。今年度から地域のボランティアも活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に施設長、ケアマネ同席の上、主治医についての家 族の希望を確認し、主治医と連携をとりながら状態に応じ て適切な医療が受けられるように努めている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として利 用している。協力医療機関は事業所隣にあり、24時間体 制での医療連携が図られることに安心感がある。専門医な どの希望する医療機関の受診は家族協力を得て支援され、 緊急時は管理者や介護支援専門員が同行し適切な医療が受 けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の利用者の状態を各記録にて確認し、主治医に申し送 りし、必要であれば受診や必要な処置を受けられるよう支 援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者と情報交換や相談を行い、受け入れに必要な準 備もすぐに対応できるようにしており、また病院や施設関 係者の合同勉強会には参加し関係づくりに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に家族に説明し方針を理解してもらい、ご家族の意 向も確認し利用者の状態変化に合わせて、その都度ご家族 の意向を確認し、主治医や家族と連携をとりながら対応で きるようにしている。	
			(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備し、利用者や 家族に説明している。これまでも多数の看取り経験を持 ち、協力医療機関と密接な医療連携を図りながらチームで の支援に努め、状況に応じた話し合いの場を設けている。 職員同士はミーティングや業務の中でその都度話し合いを行 うほか、法人内外の研修や勉強会に参加し不安軽減やスキ ルの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 各種マニュアル、院内勉強会にも参加して急変時や転倒、転落時の初期対応を職員全員が理解し、実践できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練（1回は消防職員立会い）を実施している。職員や利用者はほぼ全員参加できるようにしているが近隣の参加は今のところない。今後協力して頂けるよう声掛けしていく必要がある。	
			(外部評価) 年2回の消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。非常時の備蓄品として3日目安の食料を備えている。避難場所となる中庭を囲んだ平屋造りで避難経路を多数確保しやすく、避難時の弊害防止として床に不要なものを置かないように注意している。移動時に車椅子使用者や介助が必要な利用者が多いため、職員人数の少ない時間帯の安全確実な避難方法や、地域住民を含めた訓練の実施が必要な状況にある。	移動時に介助が必要な利用者がほとんどであり、確実に利用者や職員が安全に避難できるよう、危機感をもった取組みの必要性がある。法定訓練だけでなく自主訓練も視野に入れながら、ユニット間と法人内事業所間、地域住民との協力体制の構築は必須であり、実際に訓練をしながら不安軽減に努めて欲しい。地域住民を含めた訓練の実施や、協力体制を築くために具体的な方法を、職員間や運営推進会議の機会を活用し共に検討することで前進できることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いには十分気をつけるようにし、利用者の居室への出入りの際に声掛けしたり、居室のドアについても開けっ放しにしないよう心掛けてはいる。興奮時の声掛けや対応など今後の課題であると思う。	
			(外部評価) 個人情報の取り扱いについて書面をもって説明し、同意を得ている。排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面をはじめ、日頃から声かけに注意をはらっている。利用者の誇りやプライバシーを意識した対応が心がけられている様子は、職員の優しい声かけに現れている。口調が強くなるなど配慮に欠けていると感じれば、その都度職員同士注意し合い改善へと取り組むことができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話のできる方についてはできる限り、話しやすい環境を心掛け、会話が困難な方に関しては目の動きや仕草などのボディランゲージにも注意し、できる限り気持ちをくみ取れるように配慮してはいるが、自己決定については認知症の度合いもあり、困難ではあるが引き続き行っていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 現在、要望は上がっていないが日々の過ごし方はできる限り利用者のペースに合わせて職員本位にならないように気をつけている。実際に要望があればできる限り対応していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服についてはは季節感を大切にし、好きな服を着てもらったり洋服の色合いなどご本人らしくおしゃれができるよう心掛けている。整容や散髪などは個々の利用者に合わせて必要な支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる方にはもやしの根とりなどできる事をしてもらい、食器洗いも状況を見ながら手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、食材等は一括購入しているが、ユニット毎に調理し温かな香りが食欲を誘っている。準備や下ごしらえなど可能な利用者は職員と共に手伝っている。生活の中で食事に関する希望や好みを把握し、外出時に寿司店や喫茶店を活用したり、主食や飲料の希望に対応することができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の考えるバランスの取れたメニューに従い調理し、水分量や食事量も把握しながら、必要があれば形態も食べやすいもので対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じ、支援方法を変えている。できる方は声掛けと確認、出来ない方はガーゼによる口腔清拭やうがいなどまた、スポンジブラシをご家族に用意してもらい職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を確認しながら、個別に定期誘導を行って介助している。身体レベルもだんだんと低下しており、トイレ介助も困難になってきている方が増えているが、今後でもできる限り対応できるよう職員で話し合いながら介助方法を検討していきたい。	
			(外部評価) 協力医療機関のリハビリテーション担当者と相談しながら、利用者の残存能力や機能回復に考慮した取組みをしている。排泄チェック表にてパターンを把握し、個別に誘導や介助を行っている。トイレでの自然排泄を大切にしているが、無理なく排泄支援が実施できるよう習慣や用品の選定を工夫し、自立に向けた支援に取り組むことに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表をもとに排便チェックと服薬等のコントロールを行っている。水分補給も十分できるよう心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本はその日の担当職員が様子を見ながら、声掛けし入浴介助している。お好きな方にはゆっくり湯船にも入ってもらっている。時間は業務の順番に従い毎日決まった時間に行っている。拒否がある場合は時間をかけて対応し、シャワー浴に変更するなどして対応している。	
			(外部評価) 週2回午後からの入浴支援を基本にしている。各ユニットには個別浴槽がある。医療面で入浴ができない利用者には清拭対応で清潔を保持している。入浴が苦手な利用者にも、誘い方や2人介助など柔軟な対応に工夫することで、無理強いすることなく入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活のペースを大切にしながら、出来るだけ希望に沿った生活ができるよう努めている。昼夜逆転傾向の方は日中の活動量を上げ、夜間に十分な睡眠がとれ昼夜逆転傾向が改善できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬内容は薬情等で職員が把握できるようにしており、効能や副作用についても把握するよう努めてはいるが、ユニット職員全員となるとまだ不十分。今後も継続して行っていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の能力に応じて、洗濯物干しや洗濯たたみ、もやしの根とりや食器洗いなどお手伝いをお願いしている。天気の良い日は庭に出て日光浴や草むしりなどで気分転換してもらっている。定期的に小学生や幼稚園児との交流の機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望や状況に応じて多ユニットに出向き、ユニット以外の利用者や職員と交流の機会を持っている。家族が協力してもらえる方には外出の機会を持てるよう支援している。施設での外出の支援もできる限り実施している。地域の協力は得られていない。 (外部評価) 景色の良い事業所周辺地域での散歩や眺めの良い中庭での日光浴で、日頃から気分転換を図ることができている。身体状況により外出が困難な利用者もおり、繰り返しの訪室や声かけで気持ちを和らげるよう工夫している。金銭管理の利用者も安心して外出できるよう、お金を使った場合の用途については、随時わかりやすく報告している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人でお金を持っている方はいない。今のところ特に希望も出ていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持参している方は1人おられるが、かけたり受けたりはできないため、職員が介助している。その他の利用者からも希望があれば施設の電話を使用し、ご家族と話せるよう対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングなど共有のスペースには季節感のある飾りつけを行い、季節のお花を飾ったりしている。また、お花見会や夏祭り、クリスマス会のポスターなども掲示し、季節を感じてもらっている。	
			(外部評価) 緑の芝生が和む中庭をユニットそれぞれから眺めることができ、和調の建物やウッドデッキ、畳のコーナーなど各所に気持ちを休める場所がある。天井が高く開放感と明るさがある。日中利用者はリビングに集い、ゆったりとした時間を過ごしている。季節の花が飾られ、室温や湿度に配慮しながら居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファやテーブルの配置など時々模様替えし、空間づくりを工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室にはご家族の写真などお好きな物を持ち込んでもらい、また施設での行事の写真を貼ったりして、本人の気持ちが少しでも和むよう配慮している。	
			(外部評価) エアコン、整理ダンス、洗面台、ベッドなどが整備された居室であり、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声かけもしている。利用者の思いや習慣に合わせて、家族の写真や掲示物がきちんと飾られ、また、身の回りもきれいに整えられており清潔感が感じられる。利用者が大切にしている物や、家族や、友人からの土産物などを配置するなど工夫し、居心地よく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人の能力や希望、家族の意向も確認し、必要な場合はリハビリ担当者の意見も取り入れながら、個人の能力を活かし能力に応じて活動しやすい環境を整え、できる限り、安全で自立した過ごし方ができるよう工夫している。	